

事業所の概要表

(令和 7年 6月 1日現在)

事業所名	グループホームいだい					
法人名	社会福祉法人 泰斗福祉会					
所在地	愛媛県松山市下伊台町1382-1					
電話番号	089-993-8146					
FAX番号	089-993-5128					
HPアドレス	https://taitofukushikai.jp/					
開設年月日	平成 26 年 1 月 18 日					
建物構造	☐ 木造 ☒ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (1) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	☒ 無 ☐ 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 (男性 8 人 女性 10 人)					
要介護度	要支援2	1 名	要介護1	5 名	要介護2	3 名
	要介護3	4 名	要介護4	4 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	0 人	1～3年未満	6 人	3～5年未満	3 人
	5～10年未満	6 人	10年以上	1 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 9 人			
	その他 ()		准看護師2名			
看護職員の配置	☒ 無 ☐ 有 (☐ 直接雇用 ☒ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	松山ベテル病院 ・ そらとくも歯科					
看取りの体制 (開設時から)	☒ 無 ☐ 有 (看取り人数: 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000 円	
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円	
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☒ 無 ☐ 有	
食材料費	1日当たり 1,500 円	(朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ: 円	(夕食: 円)
食事の提供方法	☐ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☒ 外注(配食等) ☐ その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費 10,500 円	
	・ _____ 円	
	・ _____ 円	
	・ _____ 円	

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	☒ 無 ☐ 有 (発行回数: 回) ※過去1年間		
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者	☒ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者
		☒ 民生委員	☒ 自治会・町内会関係者 ☐ 近隣の住民
		☒ 利用者 ☒ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等	
	☐ その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和7年9月16日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	5	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890101011
事業所名	グループホームいだい
(ユニット名)	だんだん
記入者(管理者)	
氏 名	奥谷 真奈美
自己評価作成日	令和7年 8月 13日

【事業所理念】※事業所記入 ○ご利用者様の人生観、価値観、思いを尊重し、その人らしさを大切に介護を行います。 ○地域とのふれあい、家族との結びつきを大切にしながら、家族的な雰囲気の中でそのひとらしく、ゆったり、楽しく、自由な生活が送れ、安心してくらせるよう支援します。 ○人に対するおもやりの心を持ち、安らぎのある生活を支援します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①プランチェック表を作成。各利用者の担当職員が毎月月末に支援について振り返り(チェック)を行い管理者に提出する。 翌月のユニット会でチェックした内容を話し合う。 ②家族に行事ごとやイベント(誕生日会等)の参加案内を行う。誕生日を一緒に祝っていたりできるよう工夫する。 ③毎月月末に、職員の個人目標について管理者と面談をし、アドバイスを。上半期(4月〜9月)、下半期(10月〜3月)で施設長面談を行う。 ④旬のものを使用した炊き込みご飯や混ぜご飯と一緒に作る。季節ごとに季節の果物を提供する。職員が利用者と一緒に時間を過ごす時間を作る。職員が利用者と一緒に食事を。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 おやつは、ロングセラーの懐かしいものを職員が選んで用意している。ハーモニカ演奏や歌のボランティアを受け入れており、利用者が曲をリクエストするとして音楽を楽しむ機会をつくっている。おやつを利用者と手づくりして個々の出番をつくっている。 回覧板が回ってきており、利用者と一緒に次のお宅に回っている。秋祭りには、地域の神輿が来る。地元からの利用者は、顔見知りの方と会い、話をする機会になっている。 散歩時には、地域のひとと挨拶したり、登下校する小・中学校の子どもたちとは、意欲的に手を振り合って交流している。年末の餅つきの折には、地域の方にも案内して一緒にやっている。
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	・何を求めているかよく声を聴く ・日々の生活で話をしている ・日頃のコミュニケーションの中で思いを引き出して聴くにしている	○		△	入居時に、本人、家族から希望や意向を聞き取りフェースシートに記録している。 入居後、日々のかかわりの中で本人から聞いた情報は、口頭で伝え合ったり、申し送り時やユニット会で共有したりしている。 さらに、本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録に工夫してほしい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	・意思疎通ができない場合、想像で行っている ・ユニット会で情報交換を行っている ・専門知識についてはコミュニケーションのもと対策する				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	・家族に会うことが少なく話し合いが難しい ・家族が面会の時話を伺っている 家族からの情報や意向を情報共有、話し合っている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	・特別なことがあれば記録している ・生活の中で紅葉や言葉など記録に残し申し送りしている ・居室の整理等に気を付けて、傷んでいるものは見直している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	・思い込みがないようにスタッフと話し合う ・入浴やシーツ交換時は前もって伝えて本人の納得できるように心がける				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	・家族との話し合いが少ない ・数名の家族とは話し合いができコミュニケーションをとっている ・面会時にお話の中で情報交換している。また記録に残す			△	入居時に、本人、家族から「これまでの生活経過」「家族歴」を聞いてフェースシートに記録している。 さらに、馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境などについても聞き取り、記録に工夫してほしい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	・なるべくできることはするように話しかけている ・色々なことをして、できることできないことを把握している				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	・一人ひとり違うので理解する ・把握するよう努めている ・生活の流れの中で変化についてスタッフと共有しもうしおく ・記録や申し送りを確認し把握に努める				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	・他のスタッフが気がつけば情報を共有している			○	毎月のユニット会(ケアカンファレンス含む)時は、プランチェック表(モニタリング表)をもとにして検討している。 さらに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討できているかどうかを点検してみようか。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	・課題の把握に努めている ・ユニット会で検討決定したことについて把握している				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	・本人の思いをよく聞こうとしている ・努めている ・プランについて検討している				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	・ユニット会での話し合いには家族はあまり参加しない ・家族の意向も踏まえて検討実施している	○		○	ユニット会(ケアカンファレンス含む)時の話し合いの内容をもとにして介護計画を作成している。 協力医療関係者と年2回話し合う場を設けており、助言や意見を計画に反映するようなケースがある。 帰りたい気持ちや強い利用者の介護計画に、「家族の面会時、食事介助に参加してもらおう」ことを挙げているような事例があった。本人の気持ちの安定につながっているようだ。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	・できる限りのことはしている ・ケアマネがしている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	・家族の面会によって精神面の支えとなっている ・地域の事業に極力協力し支援している				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	・情報共有できている ・利用者それぞれの計画を立てている			○	ユニットごとに、利用者の介護計画を一冊にファイリングし、いつでも見られる場所に置いている。新たに計画を作成した際には、ケアマネジャーが確認するよう申し送りノートと口頭で伝えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	・担当以外は情報不足になっている ・計画に沿った記録ができていない ・ケアマネがかかわっている			×	タブレット端末内に記録することになっているが、介護計画に沿ってケアが実践できたか、その結果どうだったか等の記録はほぼない。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	・毎月ユニット会で検討している ・ケアマネが見直しを行っている			◎	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理しており、3ヶ月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	・プランに沿って検討している ・ケアマネが確認している			○	毎月、ユニット会前に、利用者個々の担当職員がプランチェック表(モニタリング)を作成して、ユニット会(ケアカンファレンス含む)時に話し合うようにしている。さらに、日々の記録とつなげて、現状確認の正確度を高めてほしい。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	・本人の心身の状態や暮らしの状態の変化が生じたときは関係者との見直しを行っている ・スタッフと情報共有し記録、ケアマネに報告している ・ケアマネが作成している			○	身体状態に変化があったような時には、計画を見直すことになっているが、この一年間は、事例がなかったようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	・月1度、会議で相談 ・ユニット会で話し合っている統一した解決策を話し合い実施している			◎	ユニットごとに、月の後半に、職員が多く集まることのできる日を選んで、ユニット会を行い議事録を作成している。緊急案件があれば、SNSで意見交換して決まったことを申し送りノートに記録している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	・工夫されている ・ユニット会で問題点について話し合っている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	・全職員が参加できるように工夫している。参加できなかった職員は議事録を回覧している ・書記をスタッフ持ち回りで行い共有している ・議事録を明記し確認している			◎	ユニット会は、パート職員が勤務する日を選び、午前9時から行っている。夜勤者も参加している。職員は、議事録を確認して押印するしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	・申し送りノートやホワイトボードを活用しすべての職員に伝わるよう伝達している ・大事な情報はタブレット、申し送りノート申し送りで行っている	○		○	申し送りノートですべてを申し送っており、職員は、出勤時に確認してサイン等をするしくみをつくっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	・できる限りそうしたいがあまりできていない ・利用者にあった提供が行えている ・口腔体操や合唱を時々行っている				10時のお茶の時間は、飲み物を複数(白湯、茶、紅茶、コーヒー、甘酒、生薑湯、ココア等)用意しており、個々に飲みたいものを聞いて支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	・あまりできていない ・飲み物、食べ物、行事の参加など選択する場を作っている ・利用者の好みを把握するよう努めている ・入浴時には着る服の選択をしてもらっている ・洗濯干しをしてもらう程度			△	更衣時には、着替える服を自分で選べるように場面をつくっている。地域の祭り等に、食べ物の屋台が出るような時には、利用者には先に知らせて選んでもらえるよう支援している。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	・タイミングを見ている ・なるべく利用者を優先したいができないときもある ・一般浴、機械浴に分かれて支援している				さらに、日々の暮らしの様々な場面で利用者が選んだり決めたりするような場面を増やしてほしい。
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	・笑顔で対応する ・利用者ここに合わせた声掛けのトーンに気を付ける ・解除の時利用者のなじみのある会話をし楽しめる雰囲気づくりを心掛ける			○	調査訪問日の昼食後、職員は、利用者と秋祭りの話をしながら、個々の祭りの思い出話を聞いていた。法人の保育園の園児の訪問があり、利用者が子どもたちと触れ合う機会をつくっている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	・相手の反応を見るようにしている ・その場での意思疎通が難しい時は利用者同士話ができるように支援している				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であらかじめ介護や誘導の声をしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	・人権や尊厳に沿った対応を心掛けている ・排せつの時は特に気を付けて意識した声掛けを行っている ・声掛けしなから誘導	○	○	○	毎月、施設長がテーマを決めて職員研修を行っており、身体拘束や虐待防止等の研修内容の中で職員は、人権や尊厳について学んでいる。研修後は、個々にレポートを作成している。職員の気になる言葉かけや態度が見受けられた時には、管理者が、その都度注意をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	・個人のプライバシーは守られている ・プライバシーを考慮し対応している ・排泄介助時、可能な限り退出し声掛けに気を付けている ・排泄、入浴介助前に声掛け行っている				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	・プライバシーを守れている ・入室前に必ず声掛けしている ・出入りの際、声掛けノックなど配慮して行う ・必ずノックをして入室している			○	利用者に一言声をかけ許可をもらってから入室していた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	・きちんとできている ・プライバシーの保護、個人情報漏洩防止について遵守している ・プライバシーのことについては情報漏洩防止を理解し遵守している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	・洗濯物を畳んだり、掃除掃除を手伝ってもらう ・利用者にいただいた後には、感謝をつたえている ・音の知恵や地域のことなど積極的にお話をしようとしている ・利用者方あたりがとておねがいの言葉をいただくことがある				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	・利用者が生活の中でともに洗濯物を畳み、掃除などできていることをしてもらっている ・トラブルの無いよう支援している				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	・トラブル関係にある利用者を気に掛ける ・トラブルになりそうな方については原因を知り回避する工夫を心掛け、ほうしにつとめている ・利用者が集まるテーブル以外に憩える落ち着いた場所を作りゆくりとお話できるようにする			○	花見や敬老会は2ユニット合同で行っている。調査訪問日は、ユニット間を行き来する利用者の様子がみられた。別のユニットに親戚の人がいたり、仲良しの人がいたりする場合は、一緒に過ごす時間を持つよう支援している。利用者間でトラブルに陥りそうな時には、職員が間に入り、それぞれの話を聞くなどして対応している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	・解消に努める ・トラブルはあるのでその都度方法を考えている ・起きたトラブルについて他の利用者に不安の軽減の対応をしている				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	・あまりできていないが、本人も思い出せないというところもある ・利用者の話の中や面会者の話の中で把握に努めた ・利用者が分かっていることがあ				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	・訪れることはあっても、自分が気かけの人は人では難しい ・あまりできていない ・知人が訪れることはあるが会いに行ったり出かけたりにする支援はできていない				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	・家族の希望や同行があれば可能 ・日々敷地内での活動が 利用者の希望通りにはできていないが地域の行事の時はなるべく参加している ・地域の行事には車での送迎を楽しんでおられる ・友人と外食することがある	△	△	△	玄関には、利用者がちよつと外に出る時にかぶる共用の麦わら帽子を準備していた。玄関先のスペースにテーブルを出して、ひなたぼっこをしたり、時には食事をしたりする機会をつくっている。重度の利用者も一緒に過ごせるよう支援している。畑で育てている野菜の生長を楽しみに見に行く利用者がいる。他地区にある法人介護施設で開催する祭りに参加している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	・時々行事に参加、協力をしていただき支援している ・地域のお祭りなど外出を楽しむ機会を作る ・地域の行事に家族希望者やスタッフと参加している ・外出支援はイベント等が中心				地域行事に参加したり、職員と一緒に回覧板を次のお宅に回したりしている。さらに、利用者の希望に沿った支援という点からは、家族とも相談しながら、懐かしい人や場所、行事等をきっかけに外出の機会をつくってはどうか。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る 取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	・本を読んだり、先輩からのアドバイスを受ける				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	・本を読んだり、先輩からのアドバイスを受ける ・体操をしたり歌を歌ったりして活動している				洗濯物を干したり、たたんだりする際には、一緒に行うようにしている。 調査訪問日の昼食時、時間をかけて食べることを支援している様子が見られた。ゆっくりでも自分で食べることを見守り、手の動きが止まってから職員が介助をしていた。
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	・見守りを進めている ・洗濯干しと一緒にする ・整容、着脱、入浴など必要以上は介助せず、見守りで対応、創作活動などではできるだけ参加促す ・できそうなことは見守れるようにしている	○		○	昼食後、歯磨きをしている利用者の様子を見守っていた。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの 支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	・役割を頼める方には勧める				おやつの際は、ロングセラーの様なおいしいものを職員が選んで用意している。 カフェオレを飲む習慣のある利用者には、10時のお茶の時間にコーヒーと本人用の牛乳を準備している。 ホームカ演奏や歌のボランティアを受け入れており、利用者が曲をリクエストするなど音楽を楽しむ機会をつづけている。 おやつを利用者と手づくりして個々の出番をつづけている。 さらに、レクリエーション活動の機会を増やして利用者の楽しみにつなげたいと話す職員がいた。利用者や相談しながら余暇の過ごし方を工夫してみてほしい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	・洗濯干しや量はできる利用者をお願いする全員にはできていない ・特定ではあるが、役割を持ってくださっている		○	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	・それなりに身だしなみはしている ・髪を整え服装に気を付けている				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	・本人の持ち物で日常を過ごせるようにしている ・髪型は散髪時に希望を聞いている ・状況に応じて汚れたときは替える				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	・本人がこうしたほうが良いと思ったときは、一緒に考え支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	・地域の行事には積極的に参加する ・その時の気候により支援している				利用者は、季節に合った清潔な服装で過ごしていた。男性利用者が髭剃りを忘れているような時には、知らせて、できるだけ自分で髭剃りを行えるよう支援している。剃り残しがあれば職員がサポートをしている。
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、口まわりのケア(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	・整容は鏡の前で行うなどの工夫 ・汚れはその都度ふき取っている ・乱れや汚れ等はきげなく整えるようにする	○	○	○	男性利用者の中には、以前と同じように、つばの付いたキャップをかぶって過ごす人がいる。汚れたら「こちらもお似合いですよ」と言って、別のキャップをすすめている。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	・来てくれる業者をお願いしている ・行っていない来てもらっている ・施設で提携している理容師さんに来てもらっている ・定期的に訪問の理容があるのでしていない				白髪が気になるが、毛染め剤を付けた髪を触ってしまうことで、行うことが難しい利用者について、家族と相談してカラーシャンプーの使用に変更して支援している事例がある。
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	・訪問理容にて定期的に髪型を整えている ・常に気を付けて支援している			○	化粧する利用者には「綺麗ですね」と感想を伝えたり、寝る前に化粧を落とすよう声をかけたりして続けられるよう支援している。
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	・食事の状態の観察を行い、嚥下状態、食事量に注意した。				朝・昼・夕食とも、でき上がった食事が届く。事業所では、主食をつづけている。(朝食は、主食とみそ汁をつづけている) 利用者の中には、下膳やお盆拭きをする人がいるが、利用者が食事づくりのプロセスにかかわることはほばない。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	・決まった給食をおくりする ・外注して行っていない ・スタッフ対応している ・業者から配達された食事を提供している ・調理されたものが配達され小分けにして利用者ごとにミキサーにしている			×	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	・していない ・スタッフ対応している ・現在は利用者とともに行っておらず職員で対応している ・買い物、盛り付けはすべてスタッフがしている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	・あまり把握していない ・アレルギーの有無を知り対応している ・苦手なものは把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	・決まった献立に基づいて季節のものはプラスする ・外注しており献立は立てていない ・別に旬の食べ物は時々出している ・時々季節の旬のものを提供している ・行事によって季節を感じさせる旬の食材を取り入れている ・食事新々の野菜ができれば持ち込みで焼き込みご飯や寿司等を料理している			△	業者からでき上がった食事が届くため、利用者の好みや昔なつかしいものなどの反映は難しい。 職員から果物、たけのこ、栗、サツマイモ、山菜等の差し入れがあり、献立に追加している。 主食は、季節や行事によって、煎、豆、サツマイモご飯、寿司や混ぜご飯にアレンジしている。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いとりや器の工夫等)	○	・利用者の援手状態に合わせて提供している ・器を工夫しておいしうに盛り付けをするようにしている ・メニューが決まっているムース食の利用者				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	・本人専用のものを使用している ・入所時持参してもらう ・茶碗コップ箸は各自のものを使用している ・各自利用者の使いやすいものを使用している			◎	入居時に茶碗や湯飲み、箸等は持参してもらい、その後、壊れたら事業所でそれぞれに合ったものを用意している。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	・スタッフと一緒に食事はしていない、見守りの中で食べこぼしなどサポートしている ・一緒に食事はしていませんが見守りで様子を見ている			×	利用者の食事中は介助に徹して、その後で持参した弁当を別の場所で食べている。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	・献立を利用者に伝える ・会話の中でこの後の食事のメニューの話をしたり食膳の口腰ケア時に献立についておいしうに伝える ・食事をおいしく召し上がれるよう歌を歌ったり話したりして雰囲気づくりに配慮している	○		×	朝食のみそ汁をつくる際には、においがするが、その他は、業者からでき上がった食事が届くため、食事をつくるににおいや調理の音などはしない。 さらに、利用者がおいしい食事を楽しみにできるように支援に工夫を重ねてほしい。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	・献立が決まっている ・栄養士の管理のもと食事提供している時間ごとに水分の提供をしている ・食事量や水分摂取量の少ない利用者は介助や回数に分けて足りて確保している ・栄養バランスえんじゅあ、ムース食で確保している				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	・水分摂取には気を付けて取り組んでいる ・利用者の状態によって栄養士に相談している ・食事に汁物を付けたたりカロリーの高いムース食を提供する ・できる限りストローで飲むよう工夫している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	・栄養士による献立で提供している ・基本的には業者からの給食であるが栄養士のアドバイスを受けている ・メニューが決まっている			△	業者の献立内容について、意見や要望があればノートに書いておき、毎月のユニット会時に参加する法人の管理栄養士に伝えられている。管理栄養士からは、食事形態や主食の量などのアドバイスをあ。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	・衛生管理に注意する ・努めている ・衛生に注意して手指消毒して調理用具、食材を扱っている ・食事を作ってから一定時間で始末している				塩分を控えるためとで、昼・夕食には汁物は付けていない。さらに、管理栄養士の協力を得て、出汁やうま味、薬味、香り、彩りなど、塩分を控えてもおいしいと感じる料理を考えてみてはどうか。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	・理解している ・食後口腔ケアを行っている				毎月の訪問歯科の検診にて、口腔内の健康状況を把握している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	・虫歯は歯科医師と相談し日常歯磨きをする ・月に一度訪問歯科往診により把握している ・歯科診療で受診を受けている			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	・歯科医からアドバイスをいただき口腔ケアを行っている ・訪問の歯科医から口腔ケアについて学ぶ				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	・支援している ・スタッフによる義歯洗浄、消毒を行っている、できる人は洗浄していただく ・夕食後は義歯を外し職員が行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	・歯科医の受診を受けている ・食後の口腔ケアではできるだけ本人にしてみもらい義歯の洗浄は個々に合わせて介助している ・異常があれば歯科医の治療を受けている ・うがいのみの利用者もいる			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	・理解している ・プライバシーに気を付け自尊心に注視しながら介助する				ユニット会や日々の中で、必要性や適切性について話し合い支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	・便秘の時訪看や医師に相談する ・理解している ・便秘の状態を理解している ・自分で排出できなかつたり水分が足りない状況				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	・3時間に一度トイレ介助を行っている ・排泄版に時間ごとに記入しスタッフで共有、情報を申し送っている ・記録や申し送りなどによってパターンを把握する				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	・トイレでできるよう支援している ・利用者ここにあった対応をし、時々状態によって検討している ・各利用者の尿量を知り介助している ・利用者によってパットの種類を使い分けている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	・薬に頼っている ・トイレ誘導時に腹部マッサージや排せつを促す声掛けを行っている ・利用者により下剤使用				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	・行っているが失敗することもある ・各利用者のパターンを知り早めにトイレ誘導を行っている ・利用者のパターンに合わせて時間をずらして誘導している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	・ケアマネ管理者が家族と相談 ・支援している ・本人の好みではないことが多い				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	・努めている ・管理者やスタッフと話し合い適時考慮して使用している ・夜間状態に合わせて使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	・同じものを食べているので難しい ・便秘時腹部マッサージを行う自然の排便を心掛けている・運動の働きかけをすることもあるが薬を用いることが多い				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	・週2回以上入浴できるよう努める・お好きな温度にしている ・曜日や時間帯は職員の都合で決めることが多い	◎		△	利用者個々に、週に2回、午前中の中入浴を支援している。長さや温度は、希望を聞きながら支援している。入浴剤を入れて楽しむことがある。「入浴を楽しむことができる支援」という観点から利用者一人ひとりの支援に工夫してみしてほしい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	・支援している ・ゆっくり入浴できるよう支援している・温度など本人の好みを把握しくつろげるよう支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	・支援している ・機械浴になる方が増えている ・本人ができることはしていただき難しいところを手伝っている ・気持ちよく入浴できるよう支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いないで気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	・工夫している ・無理強いないよう言葉かけで促す ・寒さを気にするときは温度管理を、洗髪が苦手な人にはシャンプーハットを使用するなど工夫している ・一呼吸おいてから入浴できるよう工夫している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	・確認している ・本人に変わりないか伺いバイタル一般状態の把握をしている ・血圧等を測定し体温の高い時は見合わせている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	・夜勤をしていないので夜間のことは不明 ・把握している ・申し送りの中で把握に努めている				薬剤を使用している利用者については、日中や夜間の様子を主治医に報告し、相談しながら支援している。夕食後は、徐々に照明を暗くするようにしている。9日に1回、シーツ交換や布団の天日干しを行うようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	・夜勤をしていないので夜間のことは不明 ・行っているが長い目で見ている ・訪問診療時、主治医に相談する ・日中傾眠の無いように心がける				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	・その都度利用者の状況を訪看や医師に報告し相談している ・日中の活動の様子など状態把握に努めている ・診療時相談し良い方向に支援している			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	・昼寝等必要に応じ個別に部屋にお連れする ・取り組んでいる ・傾眠があるときは状況を見て臥床介助している ・利用者により休めるよう支援している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	・携帯電話を使用し気持ちの安定となっている ・ご本人がかけたいを持っている利用者は各自電話をしている ・利用者2名携帯電話を持っている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	・不明 ・行っていない ・住所等が分かる利用者がいない				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	・利用者2名携帯電話を持っている ・不明 ・あまりしていない ・できていない				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	・不明 ・利用者に届いた郵便はキーパーソンにお渡ししている ・手紙が届いているかわからない				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらいとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	・不明 ・管理者が対応している ・電話をかけるような支援はしていない				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	・各利用者の預かり金から必要なものを出している ・問題が生じることが予測されるため貴重品お金は本人が取り扱っていない				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	・不明 ・利用者が外出して買い物をするのがない ・問題が生じることが予測されるため貴重品お金は本人が取り扱っていない				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	・不明 ・利用者が外出して買い物をするのがない ・問題が生じることが予測されるため貴重品お金は本人が取り扱っていない				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	・不明 ・利用者が外出して買い物をするのがない ・問題が生じることが予測されるため貴重品お金は本人が取り扱っていない				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	・預り金について家族とのルールを話している ・その都度対応している ・事務所に責任者が管理している				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	・柔軟な対応を心掛けているが既存のサービス内にとどまっている ・家族の意向についてその都度管理者へ報告を行っている ・利用者家族から依頼を受け支援している	○		○	家族の都合によって、専門医の受診は職員が付き添い支援している。家族から洋服の購入の依頼があれば、利用者の好みを踏まえて職員が買い物の代行をしている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	・あまり来客がない ・自由に出入りできるようにしているが掃除や環境なども少し工夫が必要 ・玄関前に植物(桜)や畑を作っている	○	◎	○	通りからもよく見えるように大きい看板を付けており、敷地の出入口には、大きな観音像を建てている。さらに、玄関周りについては、来訪者が親しみやすいような環境づくりに工夫してはどうか。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設けになっていないか等。)	○	・手作りカレンダー、季節の花飾りを作成する ・家庭的な雰囲気に近づけるような装飾や美化に努めていく ・居室ホールの清掃を行う ・季節を取り入れたカレンダー作成をスタッフと利用者で取り組んでいる	○	○	○	居間は、天井が高く、開放感がある。壁紙や色合いはユニットごとに違う。 利用者と職員でつくった季節の作品を吊るしたり、壁に貼ったりしていた。
		b	利用者ににとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行っている。	○	・毎日掃除をしている ・不快な音や光、においや汚れがないよう換気掃除を行っている ・換気掃除を行っている ・掃除は毎日行う ・毎日消毒掃除を行っている			○	掃除が行き届き、気になる音や臭いは感じなかった。ユニットによっては、昼食中はテレビを消して、CDで童謡を流していた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・カレンダーづくり季節の壁飾り作りをしている ・折り紙で季節感のあるものを作り掲示する試みを行っている ・毎月カレンダーづくりに支援している			○	居間にある掃き出し窓からは、外の様子がよく見える。川を隔てた向かいにある郵便局の局長が世話をしている花壇がよく見える。 模造紙に大きな数字のカレンダーをつくり、居間の壁に貼っている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	・工夫している ・ソファでゆっくりできる時間をとっている ・一緒に話してはと声掛けを時々している ・窓側のソファのところで寝落ちして過ごせる場所を作っている ・食事の時の会話時間のある時はテレビを見て過ごされる				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	・一緒に整理しながら過ごしやすいように援助しているが家族との相談は少ない ・寝具や家具など好みのものを使用、居心地よく過ごせるようにしている ・洗濯物を一緒に干したり畳んだり、できることを自立した生活が送れるようにしている	○		○	居室に、テレビやテーブル、鏡台を持ち込んでいる人がいる。洋服を選びやすいようにハンガーに掛けられている人がいる。家族写真や誕生日の色紙、塗り絵作品を飾っている人がいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	・建物内部は使用者が活動しやすいよう手すりを配置安全に移動しやすいようにしている ・見守りを行い迷うことがあれば誘導している ・トイレや居室が分かるよう案内をつけている			○	居室の入り口にネームプレートをつけている。自室がわかりにくい利用者には、入り口の本人が見やすい位置に、氏名を大きく書いて貼っていた。 ユニットごとに3か所あるトイレには「トイレ」と大きく表示している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	・危なくないものは手に取れる ・新聞紙は所定の場所に置いてある特定の方がみている ・危険と思われるものは片付けている				建物内は、居間を囲んで居室を配置した開きで、テーブルや椅子、ソファ、テレビなどを中央に寄せて、居室までの動線に空間をつくっている。そこで歩行練習したり、自走して回ったりするような利用者がいる。
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	・スタッフ一人で見守りを行うとき注意を行っている ・玄関にカギをかけないことは理想だが職員が一人だったりと時々で利用者が外に出てさしたことがある ・センサーなどですぐに察知できるよう努めている ・カギをかけることも多かった	○	◎	△	身体拘束に関する法人内研修(10月・1月)時に、職員は、鍵をかけることの弊害についても学んでいる。利用者がひとりで出かけて行き、捜索したようなことがあったことを機に、各扉にセンサーを設置した。日中は、原則、玄関やユニット出入口に鍵をかけないが、ユニットによっては、職員が1人で対応するような時に鍵をかけることがあるようだ。管理者は、職員に鍵をかけた理由を聞いて開錠を促す指導を行っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	・スタッフ理解見守りを行っている ・施錠について家族と話し合っているかはわからない ・鍵をかけることは家族に話し合って支援している				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	・個人ごとのファイルを見ることができる ・把握に努めている ・月2回の訪問診療の様子、薬、処置の変更など把握に努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	・記録に残している ・できるだけ記録している ・利用者の変化に気づけるよう見守りを行っている ・状態変化があるときは記録に残したりバイタル測定なども行う				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	・相談する順に沿って電話をかける ・努力している ・訪問看護、診療で相談を行っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	・月に2度訪問診療あり ・決まった医療機関がある ・基本的に連携の医療機関を受診している ・提携病院を受診	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	・調子が悪い時は医師と相談 ・支援している ・月2回受診				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	・家族先生の受診合意のもと話し合っている ・ケアマネ管理者から情報を受ける ・家族への報告をしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	・ケアマネ管理者が行う ・行っている ・病状についての経過をまとめ情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	・ケアマネ管理者が行う ・ケアマネ管理者が行い情報をいただいている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	・FAXを送り情報を伝えている ・訪看と医療機関にそうだんしている ・週2回の訪問看護で利用者の変わったことなど報告相談できている ・日常の情報を管理者が報告している				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	・電話で訪問看護ステーションと密に連絡できている ・体制が整っている ・訪問看護に相談対応できている ・訪問看護に24時間相談できる訪問看護にオンコールで報告				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	・努めている ・訪問看護を受け必要時主治医へ報告して対応できている ・訪問看護のオンコールで対応している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	・医師からの処方に沿って服薬を手伝う ・薬の情報を知り変更時にはスタッフ、訪看へ情報共有している ・薬補変更があったときはコピーをして情報提供している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	・医師からの処方に沿って服薬を手伝う ・努めている ・薬を日付、氏名、朝昼夕眠前の確認をしている ・誤薬を防ぐよう確認し取り組んでいる				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	・体調を見守る ・努めている ・緩下剤を服用している際、便の観察を行い緩い時は中止の考慮をしている ・副作用が多い時は中止している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	・ケアマネ管理者 ・共有している ・訪問看護対応していただき主治医から必要に応じ話し合いをしていただいている ・話し合いサインをいただいている				入居時、重度化や終末期の支援について説明を行い、状態変化時には、その都度、家族、主治医、職員で話し合い方針を共有している。 この一年間は、看取りの事例はなかった。 令和7年8～9月の間に、ケアマネジャーは、利用者・家族から、看取りを含めて緊急時対応に関しての希望を聞き取った。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	・ケアマネ管理者 ・職員、かかりつけ医師、訪看と話し合いを行っている ・重度化終末期の在り方について統一したものを情報共有している ・話し合いサインをいただいている	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	・ケアマネ管理者 ・わからない ・話し合ってサインをいただいている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	・ケアマネ管理者 ・得ている ・管理者から説明し支援されている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	・ケアマネ管理者 ・重度になった際予想される終末期の対応について主治医、訪問看護と連携をとる昼用がある				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	・ケアマネ管理者 ・家族へ寄り添い支えていく				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	・職員会で勉強する ・学んではないが一人一人が気を付ける ・研修を行っている ・研修を利用して学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	・整えている ・研修の中で予防できることについて知り実施している ・訓練は行えていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報入手し、取り入れ、随時対応している。	○	・職場の委員会で行っている ・テレビなどで情報を得、スタッフと共有し対策を立て対応している ・食事前のテーブル、トイレ利用者の届く範囲の消毒を実施している				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	・支援している ・手洗いや手指消毒を行う ・手洗いの励行、手指消毒を行っている ・面会来所時に発熱に注意し体温を測り記録している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	・家族からの要求があれば本人が楽しんでいただける ・利用者からの話を傾聴し思いを共感して支えている ・関係を気づけていない				手紙で、年末の餅つき、夕涼み会、花火大会、法人の秋祭りなどの案内をしている。行事によって参加人数に差はあるが、家族同士の交流の場にもなっているようだ。 来訪時や電話する際に利用者の様子を報告している。 2か月に1回、写真と手紙(行事や日常の様子について)を送付している。 さらに、家族が知りたい情報を発信できるように報告に工夫してはどうか。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	・行事に体調を良かったら一緒に家族も参加される ・地域の行事などへの参加を案内している	○		◎	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。('たより'の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	×	・ケアマネかりんしゃによる ・家族が来ているが行事等はほぼ出ていない様子 ・個人で外食はできている ・家族から相談されたり依頼されると管理者スタッフに情報報告している	○		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	・ケアマネ管理者による ・こちらはそのつもりだが面会に来られないのでできていない ・面会時お話を伺い傾聴している ・家族が来られた時は暮らしのことや問題点については報告伝えている				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	・ケアマネ管理者による	△		×	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	・ケアマネ管理者による ・利用者の日常生活の様子を伝え危険リスクについて説明し予防見守りしている ・離脱したことのある利用者がいるので鍵をかけて対応している				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	・ケアマネ管理者による ・家族が声掛けやすい雰囲気は出している気はする ・家族の面会時には挨拶を必ず行う ・面会時には安心できるような雰囲気作りができるよう心掛けている ・気持ちよく気軽に来られるように声掛けしている			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	・ケアマネ管理者による ・管理者が対応している ・わからない				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	・ケアマネ管理者による ・管理者が対応している ・わからない				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	・ケアマネ管理者による ・管理者が対応している ・役割分担の責任者が会議に出席している		○		回覧板が回ってきており、利用者と一緒に次のお宅に回している。地域の方からみかん等の差し入れがある。 地域行事には積極的に参加している。ほたる祭り(利用者・職員・家族20数人参加)、盆踊り大会(利用者13名で参加)などに参加した。ほたる祭り(地域イベント)の運営には、法人として、打ち合わせから参加しており、当日は、法人内他事業所職員も参加して、準備や屋台の売り子として協力している。 秋祭りには、地域の神輿が来る。地元からの利用者は、顔見知りの方と会い、話をする機会になっている。 散歩時には、地域の人と挨拶したり、登下校する小・中学校の子どもたちとは、意趣しに手を振り合って交流している。 伊台小学校の3年生の2クラスが、毎年、10月か11月に授業の一環でホームに訪れ、リコーダーを吹いたり歌を取って聞かせてくれたりする。事業所では、今回は、児童が福祉に興味を持てるように車いすの使い方、機械浴体験、福祉車両に車いすを乗せる等の体験ができるよう準備している。 年末の餅つきの折には、地域の方にも案内して一緒にやっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	・町内行事に参加する ・行事の声掛けはしているが、挨拶ぐらいはするが、あまりかわわっていない ・地域の方と年間行事に参加されている ・利用者同行のもとスタッフと参加して地域の活動に努める		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	・直接地域の人にかかわっていないが、協力してくださっている ・利用者が参加する行事に地域の方が支援してくださる				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	・していない ・地域の人遊びに来ることはほとんどない ・役員の方は来れることがあるが他はほとんどない ・祭り行事に獅子舞で訪談あり				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	・していない ・通りかかったときに挨拶する程度 ・利用者と洗濯干しをしているときに挨拶する程度				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	・全くしてない ・ボランティアにハーモニカ、保育所の訪問などがある ・地域の行事への参加を行っている ・桜の時期には花見をすることがあった				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	・取り組めている				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	・ケアマネ管理者による ・案内しているが参加は少ない ・年に数回程度	△		○	毎回ではないが、利用者、家族(全家族に案内している)、市職員、地域包括支援センター、地域の方、地域の事業所の参加がある。 利用者状況や活動状況について報告を行っている。外部評価実施後は、評価結果と目標達成計画の資料を準備し報告した。会議メンバーからは、会議への感想や活動への助言等がある。 さらに今後は、事業所の運営を推進していくような議題やテーマに工夫してはどうか。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	・ケアマネ管理者による ・議事録があったと思われるが最近見えていない			◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	・ケアマネ管理者による ・案内を出して参加促進は行っている			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	・事業所の理念を行えるよう努めている ・日々の実践が理念に基づいたものかわからない				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	・理解していない ・わからない	△	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	・わからない ・取り組んでいる ・毎月職員会議参加し研修を受けている				健康診断の時期に合わせてストレスチェックを実施している。 施設長（代表者）は、事業所によく訪れており、管理者や職員と話をし現状や要望などを聞いている。 法人全体の新年会は、2回に分けて行い、職員がどちからかに参加できるように配慮がある。また、参加・不参加にかかわらずビンゴゲームに参加でき、景品が当たるようになっている。 休憩時間を1時間確保している。有給休暇を取得しやすいように配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	・わからない ・出ていない				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	・わからない				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	×	・わからない				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	・わからない ・できていない	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	・研修を通じ学びの機会あり ・研修などを利用して学んでいる ・前回の研修を実施			○	高齢者虐待防止に関する法人内研修時に勉強をしている。虐待防止委員会の職員は、ユニット会時に内容を周知している。 不適切なケアを発見した場合、職員は、管理者や施設長に報告することと認識をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	・かかわってないのでわからない ・情報共有、ユニット会で話し合いをしている				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	×	・かかわってないのでわからない ・できていない				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	×	・わからない ・研修を通じ学びの機会あり ・難しい				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	・ユニット会で話し合いを持っている ・職員会議で話し合いをしている				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	・わからない ・入所契約時に話し合いを行っている ・説明はしている				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	・行っていない ・できていない ・わからない				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	・していない ・後見人制度、生活保護など利用しており専門機関と連携体制は十分ではないが築けている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	・訪看に連絡し対応している ・訪看対応マニュアルで連絡している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	・訓練は行っていない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手事前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	・努めている ・事故発生時にヒヤリハットについて報告書の提出、情報共有している ・事故報告書、ヒヤリハットで周知し防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	・取り組んでいる ・危険リスクについてスタッフで共有し回避について話し合っている ・その都度職員間で話し合っている ・ユニット会や職員会議のもと再発防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	・苦情受付表作成 ・職員ノートに記入し全員が確認している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	・利用者からの苦情はあるが地域等からの苦情はわからない、寄せられた時はその都度対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	・話し合いのもと改善している				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	・ケアマネ管理者による ・利用者から直接聞く機会は設けているが、そのほかの取り組みは不十分である	○		○	運営推進会議に参加する利用者は、運営に関する意見や要望を伝える機会がある。職員は、日々の中でも聞くことがあるが、意見や要望は出ないようだ。家族には、運営推進会議や来訪時、電話で「何か意見はないですか」と聞いている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	・ケアマネ管理者による ・できていない				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	・ケアマネ管理者による ・わからない ・施設長が現場に來られ職員の希望を直接聞いてくださる				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	・ケアマネ管理者による ・その都度確認、提案をする ・よくわからない			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	・ケアマネ管理者による ・年2回自己評価行っている ・していないと思う				外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果と目標達成計画を報告している。家族に評価結果に関する報告は行っていない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	・ケアマネ管理者による ・取り組んでいる				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	・ケアマネ管理者による ・かわっていないのでわからない	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	・ケアマネ管理者による ・かわっていないのでわからない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	・だだ不足だと思う ・1度行ったがいつも心に留めておく必要がある ・マニュアルを見ていない				この1年間は、避難訓練を実施していない。大雨の後の運営推進会議時には、災害時の注意事項等について話題に挙がったが、さらに、災害に備えて、地域との協力、支援体制の確保についても具体的に話し合っていない。また、家族アンケート結果をもとにして、取り組みを工夫してほしい。今後は、旭中学校で行われる地域の防災訓練への参加を予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	・ホームでの研修は行ったがマニュアルは作っていない ・行っていない ・できていない ・わからない				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	・消火器を設置していて、避難経路は壁に貼っています				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	・まだ不足だと思う ・消防署や地域の合同訓練はしていない	△	○	×	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	・わからない ・行っていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	・不明 ・関わっていないのでわからない				相談支援は行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	・不明 ・行っていない ・かわりがない		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	・運営推進会議を実施 ・行っていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	・不明 ・あまりおこなっていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	・不明 ・行っていない ・参加していない			×	